

# 「股関節手術を契機とした出血に係る死亡事例の分析」 に関するWebアンケート集計結果（整形外科）



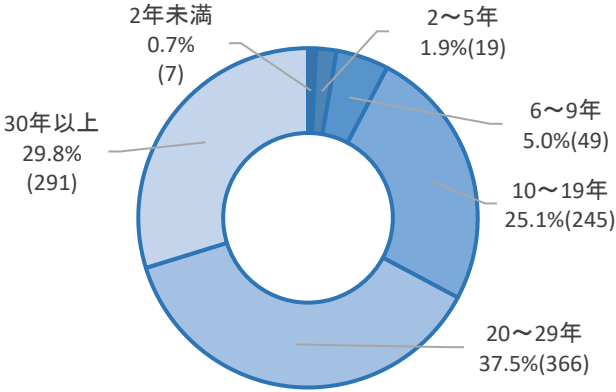
## 提言第18号 Webアンケート実施概要

調査期間 2024年11月1日～2025年2月14日  
対象 日本整形外科学会に所属している学会員（約27,000名）※股関節手術を実施していない医師も含む  
回答数 977名

### 回答者について

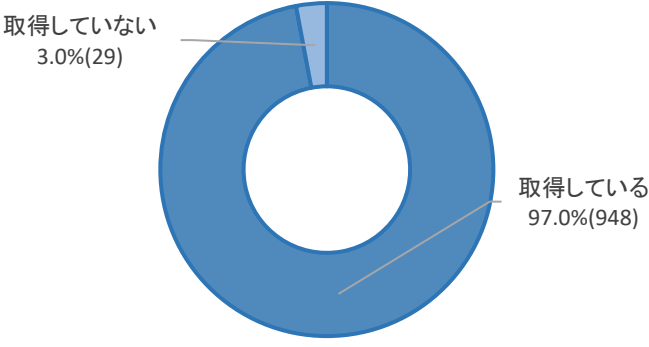
#### 経験年数（整形外科医として）

(n=977)



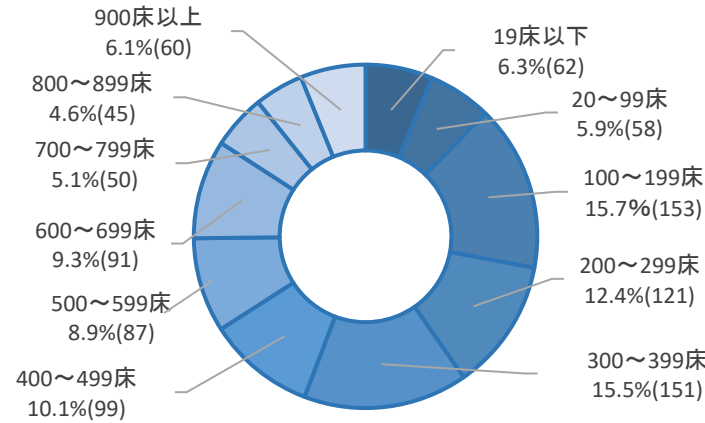
#### 整形外科専門医の取得の有無

(n=977)



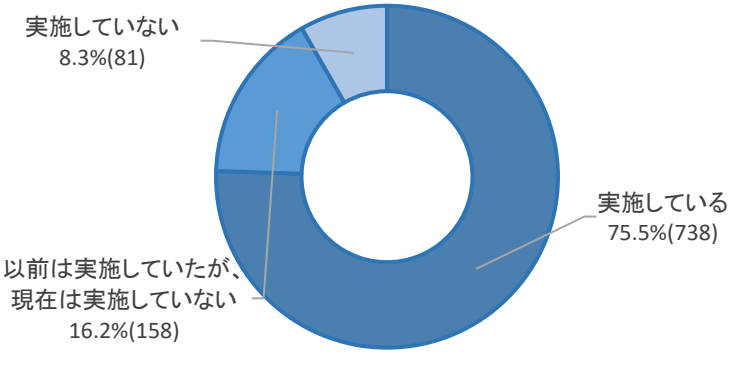
#### 所属医療機関の規模

(n=977)



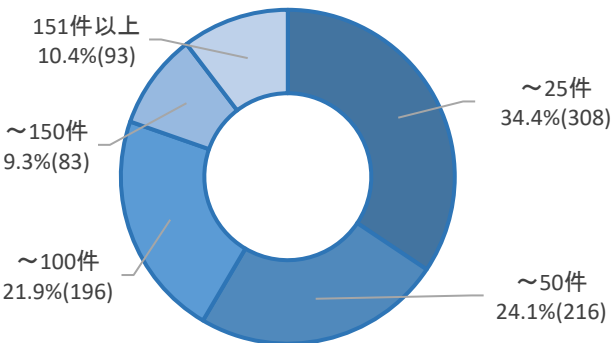
#### 股関節手術の実施状況

(n=977)



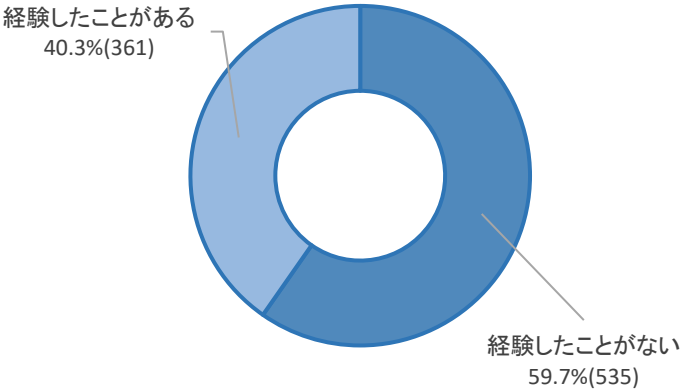
#### 股関節手術の実施件数（年間）

(n=896)



#### 血管損傷の経験の有無

(n=896)



※対象：股関節手術を実施している、以前実施していたと回答した方

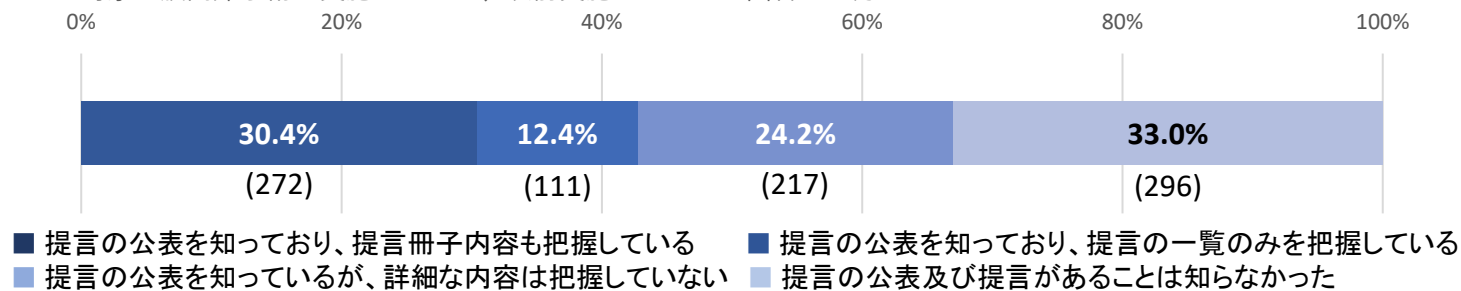
※対象：実施している、以前実施していたと回答した方

# 提言の周知状況

## 提言の公表を知っていたか

(n=896)

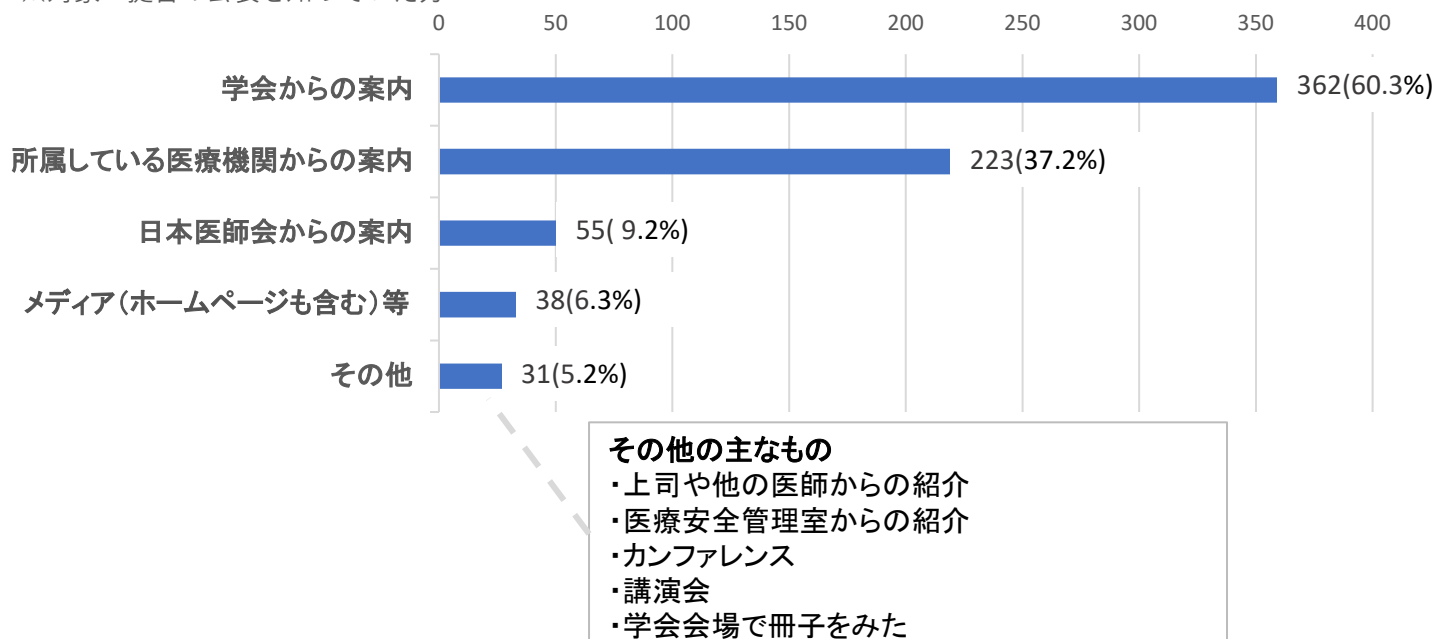
※対象：股関節手術を実施している、以前実施していたと回答した方



## 提言を知ったきっかけは何か

複数回答項目別

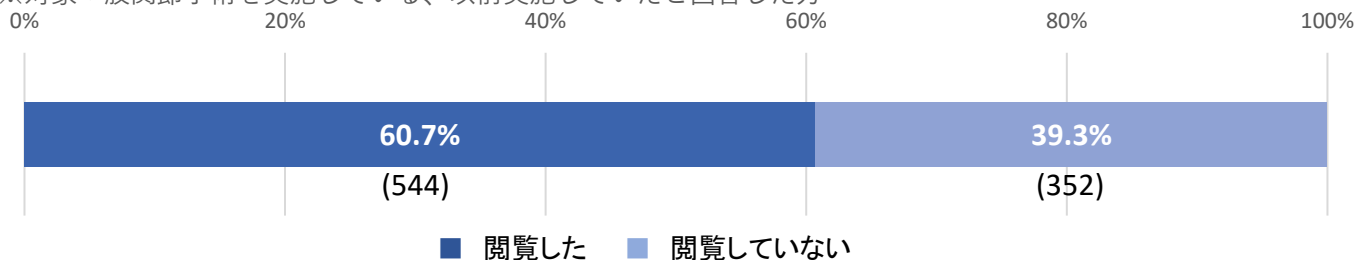
※対象：提言の公表を知っていた方



## 提言を閲覧したか

(n=896)

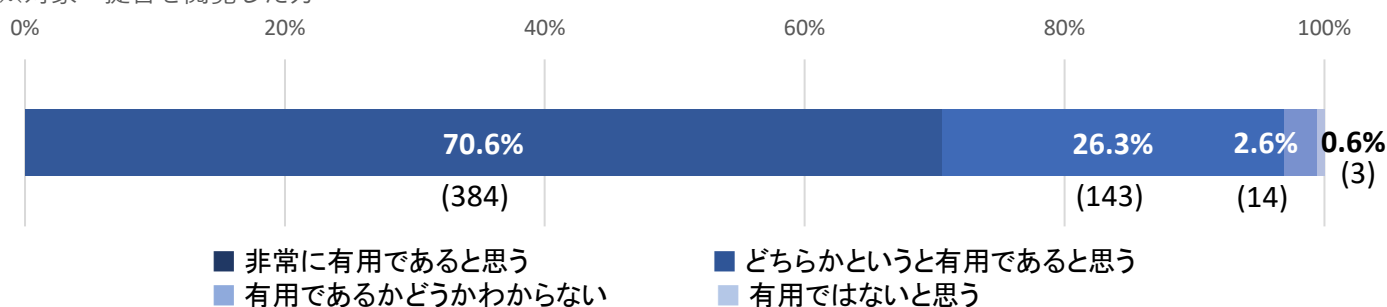
※対象：股関節手術を実施している、以前実施していたと回答した方



## 提言は有用であったか

(n=544)

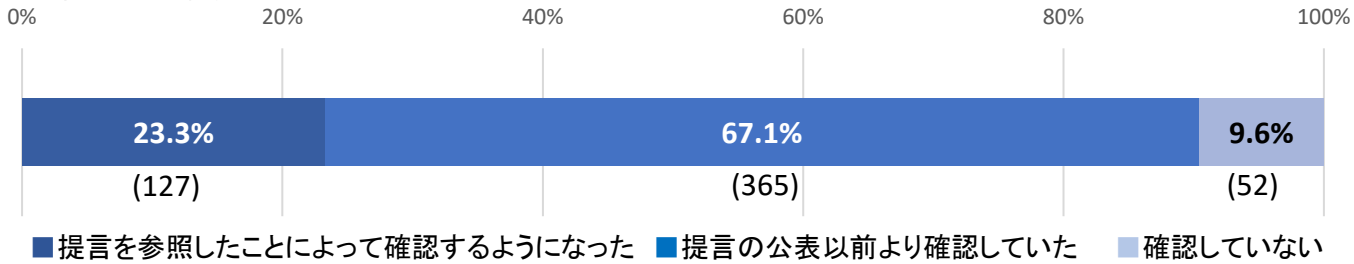
※対象：提言を閲覧した方



■ 術前に、ドリルやスクリューで血管損傷しないための画像による確認(血管走行および骨の変形や欠損等)(提言3)の状況

(n=544)

※対象：提言を閲覧した方



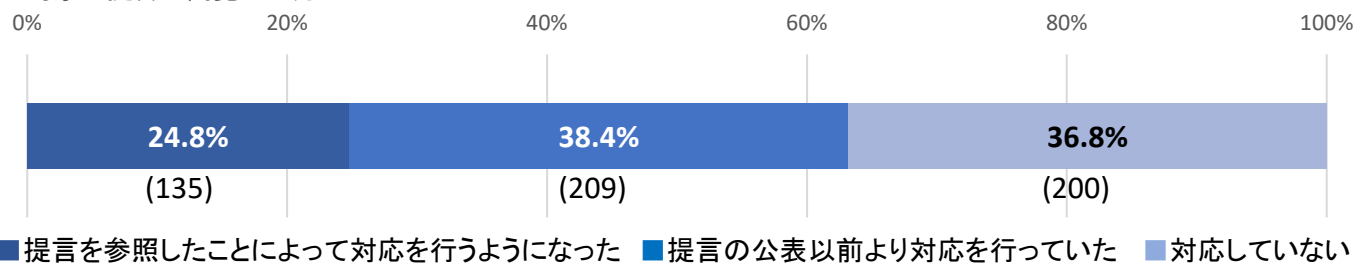
● 確認していない主な理由

- ・ドリルの方向は術前計画で判断できないから
- ・確認できる時間的な余裕はない、確認したところで手技は変わらない

■ 術中にタイムアウトを行うなど、医療チームでの対応の状況(提言4)

(n=544)

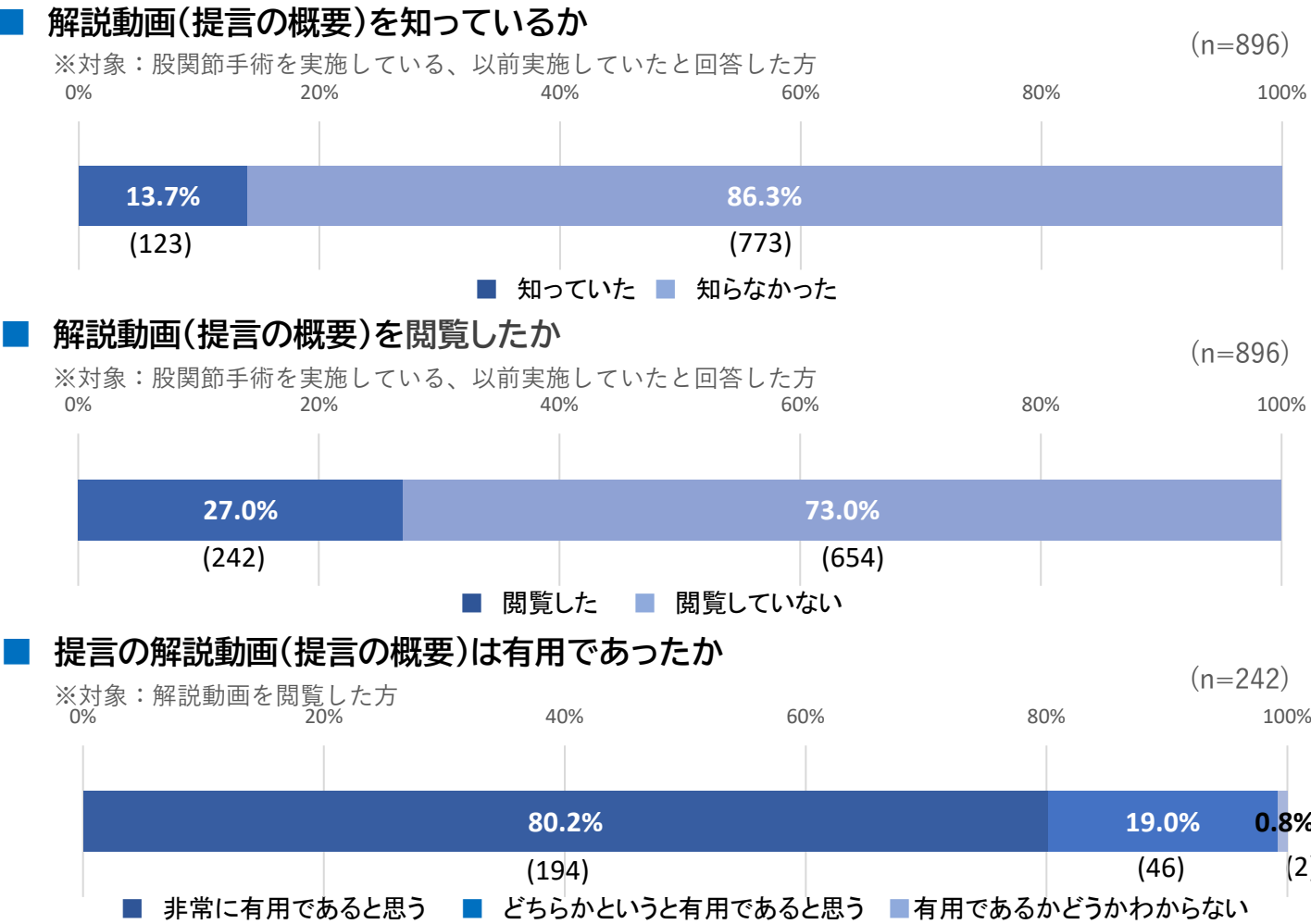
※対象：提言を閲覧した方



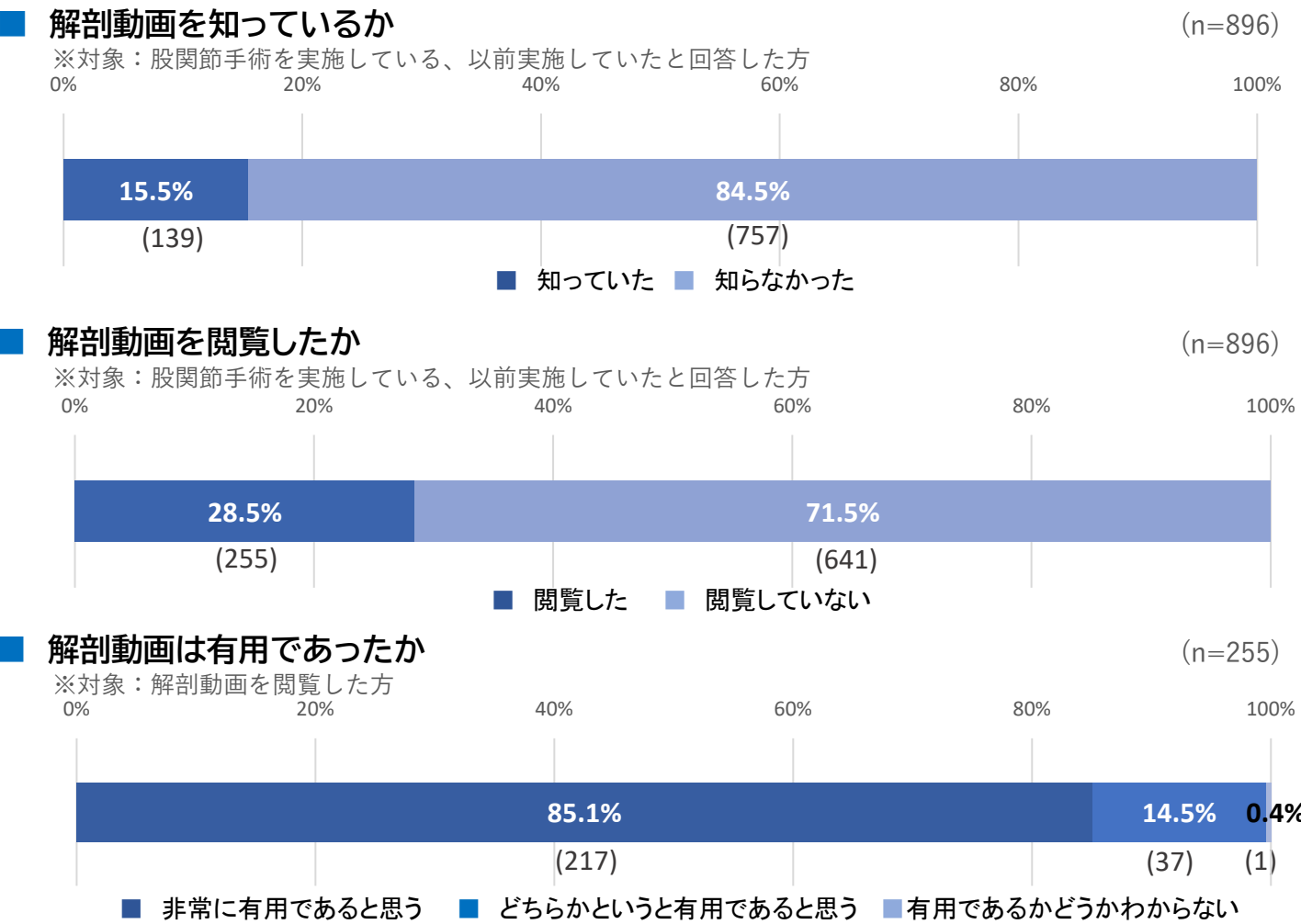
● 対応していない主な理由

- ・術中全身管理を麻酔科に一任しているため
- ・手術室全体までは情報共有できていない
- ・最近提言を知ったので、これから医療チームと話し合い対応予定である

# 解説動画（提言の概要）の周知状況



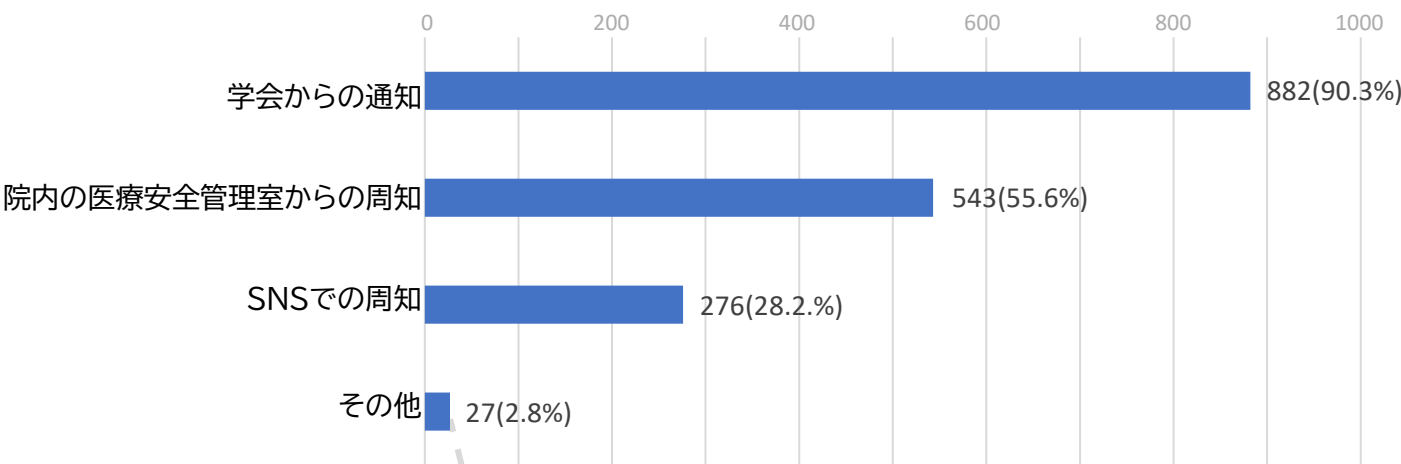
# 解剖動画の周知状況



■ 臨床現場の医師へ提言を周知するために有効な方法は何か

複数回答項目別

※対象：すべての回答者



その他の主なもの

- ・専門医試験の問題や専門医更新の必須項目に取り入れる
- ・日本整形外科学会の医療安全単位に組み込む
- ・学会におけるランチョンセミナー等の講演やパネルディスカッションで取り上げる
- ・大学医局から通知
- ・勉強会の開催
- ・手術機器メーカーも含めて周知

センターから公表している提言についてのご意見

主なもの

- ・内容がポイントを絞って短くまとめられており、3D動画も非常に分かりやすく、大変参考になった。
- ・術者はこれらのことは経験で認識していたが、提言化することにより助手、看護師などと共通認識となるのが大きい。
- ・これから股関節手術をし始める若手の先生方に対しての有効な警鐘になる。
- ・「ありうる合併症のひとつ」と捉えるのではなく、組織的な立場で課題を見つけて介入し、より安全な医療を行えるようになって感じた。
- ・今回のアンケートが提言を確認しようという動機付けになった。
- ・提言、事例分析について科内でサイトを共有してそれぞれ目を通してもらった。現場で更なる意識づけになった。
- ・学会に死亡例の発表演題や論文が出てこないため、今後積極的に学会のシンポジウムなどのメインテーマにすべき。
- ・学会ホームページにもわかりやすくURLなどのリンクをおく。